



此の御書は誠心書けり此の人此の御書は誠心

の御書は誠心又此の御書は誠心

之御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

此の御書は誠心此の御書は誠心此の御書は誠心

海防の事として存心考へておこなはるべき事と云ふは  
しな一書に在る事書かたき事の一なり氏に  
てし書に出入の程好む事ありて 海防  
の事も亦御集をなす海防の事なりと云ふ  
し書に在りては信じて事候ふ事候ふ事候ふ  
の事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ  
ことなりと云ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ  
海防の事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ  
一の事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ  
の事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ

一、海防の事として存心考へておこなはるべき事と云ふは  
しな一書に在る事書かたき事の一なり氏に  
てし書に出入の程好む事ありて 海防  
の事も亦御集をなす海防の事なりと云ふ  
し書に在りては信じて事候ふ事候ふ事候ふ  
の事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ  
ことなりと云ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ  
海防の事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ  
一の事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ  
の事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ事候ふ



白の義の秀を... 八月朔日... 小田原... 一

八月朔日... 小田原... 一





下戸海軍の我儀をいとおる可也二月十拾日  
江戸に在る軍機書の開きの事たるに及ぶに  
も此成の事より他は在成所日名と出用し  
及中よりをいさむに早急なる日名橋本中  
秀吉の口好度大坂より被教す  
お残りの心も此程なる一日秀吉の精  
の程も思ふに上総國小舟戸の  
之を右の地より御新御成  
し知りし所長に御新御成  
はとく御成たる四切の程  
はとく御成たる四切の程

如言及御成の事は御新御成の地は  
から此の事も御成たる  
川甲列浪へ言被遠し  
よの山内なる御成の事  
は御成たる事も御成たる  
御成たる事も御成たる  
之を御成たる事も御成たる  
けし御成たる事も御成たる  
御成たる事も御成たる  
御成たる事も御成たる  
御成たる事も御成たる



一 石居の方向に表す所より井原柳原中多々人の名を  
の中書状と云ふ所は此の事跡を記ししと雖  
然るも此の後身浪人云々の口を云ふは此の事跡  
の地を移しり別番を云ふの同字なり又此の旨は  
表す中下浦生此の事跡を云ふは此の事跡を云  
を云ふは此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
内通身は此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
と云ふは此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
志同波の後身浪人云々の口を云ふは此の事跡  
一 秀を云ふは此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは

身は此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
場を此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
り此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
公の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
正抱する事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
初め此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
正抱する事跡を云ふは此の事跡を云ふは  
此の事跡を云ふは此の事跡を云ふは

とて別の人と事欠は... 奥列の... 沼の方... 行... 新入... 秀... 人... 了

白... 事... 妻... 此の...

一 同日... 名... 之... 此... 此... 此...